

県内地価公示

全用途平均17年ぶり上昇

住宅地は下げ幅縮まる

国土交通省が二十四日発表した二〇〇八年(二月一日現在)の県内の公示地価は、全用途の平均変動率が十七年ぶりに上昇へ転じた。けん引役は仙台市で、住宅地、商業地、工業地が上昇した。

Table with 7 columns: 用途 (住宅地, 商業地, etc.), 08年 価格, 08年 変動率, 07年 価格, 07年 変動率. It shows price and percentage change for various land uses in 2008 and 2007.

【注】▲はマイナス。調査地は都市計画区域の七ヶ洞、色原、本吉町を除く三十三市町村の六百二十地点。県全体の用途別平均価格は、対前年の平均変動率は表の通り。全用途の平均変動率は、0.4割の上昇だった。市町村別では、住宅地は全体で十七年連続の下落だったが、下巻は前年より縮小した。市町村別で仙台市が十七年ぶりに上昇に転じた。前年よりアップした。前年よりアップした。

仙台中心部回復に勢い

高まるオフィスビル需要

国土交通省が二十四日発表する仙台市中心部の地価が鮮明になった。仙台市前年と同じになったが、発表された県内の地価上昇が勢いを増し、周辺以外では巻き戻し、多量の上昇した地点はなく、仙一名屋の地価が上がり、ビルの賃料で十分な利回りが確保できると見られる。市街地は、商業地、工業地、住宅地が上昇した。市街地の中心部は、商業地、工業地、住宅地が上昇した。市街地の中心部は、商業地、工業地、住宅地が上昇した。

「仙台高騰」一過性が

地価 土地取引、既に停滞感

二十四日に公表された「全体的には今後、一過性は消え、下がる傾向にある」とみられる。仙台市の商業地が全国屈指の昇率を記録した。東京資本と外資系のファンドマネーが流入し、オフィスビルの開発が相次いだ。最近の地価の動向は、仙台市がJR仙台駅周辺を中心にビル開発が活発化している。二〇〇八年には、青葉区の東北学院中学校の敷地が、学・高専跡に三十七階建てのビルが建設された。地下二階のビルが建設された。地下二階のビルが建設された。地下二階のビルが建設された。

Table of high price points (高い地点) in Sendai, listing location, price, and change rate. Includes locations like 仙台市青葉区中央1丁目 and 仙台市青葉区中央2丁目.

Table of price increase and decrease points (上昇率、下落率が大きい地点), listing location, price, and change rate. Includes locations like 仙台市青葉区中央1丁目 and 仙台市青葉区中央2丁目.

全国 都心部の伸び鈍化

急上昇に実需追いつかず

国土交通省が二十四日から上昇率が落ち、地価急上昇した今年、一月一日現在の減速傾向を示した。全国の公示地価は、都心部の減速傾向が顕著だ。住宅地が平均で前年比1.0割、昨年比は前年比1.0割、商業地は0.8割、工業地は0.5割、農用地は0.2割、森林地は0.1割と、全国的に減速傾向が顕著だ。都心部の伸び鈍化は、全国的な減速傾向の表れだ。都心部の伸び鈍化は、全国的な減速傾向の表れだ。都心部の伸び鈍化は、全国的な減速傾向の表れだ。